

第 4 回「甲状腺検査評価部会」 開催報告

- 1 日 時：平成 26 年 11 月 11 日（火）14:00～16:15
- 2 場 所：杉妻会館 4 階 「牡丹」
- 3 部会員出席者（50 音順、敬称略）
[出席] 春日文子、加藤良平、櫻田尚樹、渋谷健司、清水一雄（部会長）、
津金昌一郎、西美和、星北斗
[欠席] 清水修二
- 4 事務局等出席者
＜福島県立医科大学＞
安村誠司 教授、鈴木眞一 教授、鈴木悟 教授、高橋秀人 教授
＜福島県＞
鈴木淳一 保健福祉部長、馬場義文 同次長、小林弘幸 県民健康調査課長
- 5 議 事：
 - (1) 甲状腺検査について
 - (2) その他
- 6 資料一覧：
資料 1 県民健康調査検討委員会中間まとめ（甲状腺検査に関する論点整理）
資料 2-1 県民健康調査「甲状腺検査（先行検査）」結果概要【暫定版】
資料 2-2 県民健康調査「甲状腺検査（本格検査）」実施状況
資料 3 手術の適応症例について
資料 4 現時点での福島第一原発事故の甲状腺への影響について[西部会員]
資料 5 福島県における甲状腺がん有病者数の推計 [津金部会員]
追加資料 1 県民健康調査「甲状腺検査」一次検査結果通知の誤りについて
※資料 1、2-1、2-2 は、第 16 回検討委員会資料に同じ。
- 7 意見・質疑等（要旨）
 - (1) 手術の適応症例について（資料 3）[医大]
 - ・県立医科大学甲状腺内分泌外科で手術の甲状腺がん 54 例について、病理結果、リンパ節転移・遠隔転移、術式等について説明。
 - ・併せて、超音波診断のフローチャート、非手術経過観察の適応、術式選択について説明。

- (2) 現時点での福島第一原発事故の甲状腺への影響について(資料4)[西部会員]
- ・ これまで得られている検査結果について評価。
 - ・ 様々な文献、報告等について解説。
 - ・ 低線量被ばく、70、80mSvと1、2mSvとはぜんぜん違う、話し合いが必要。
 - ・ 「過剰診断」なのかどうかを含めて、検査の必要性和継続性について、客観的なデータを基に十分な話し合いが必要。
- (3) 福島県における甲状腺がん有病者数の推計[津金部会員]
- ・ 累積罹患リスクを用いた甲状腺がんの有病者数を推計。
 - ・ 今回の検査結果は、1~数年後に臨床診断されたであろう甲状腺がんを早期に診断したことによる上乗せ(いわゆるスクリーニング効果)だけで解釈はすることは困難。過剰診断を考えなければいけない。
 - ・ 早期診断により甲状腺がんによる死亡を回避出来たのは、多くても1人程度(受診者30万人あたり)。
 - ・ 無症状で健康な人に対する精度の高い検査は、少なくない不利益(過剰診断とそれに基づく治療や合併症・その後のQOL低下など心身への負担、偽陽性者の結果的に不必要な二次検査による心身への負担、甲状腺一次検査自体の心身への負担など)をもたらす可能性があるという認識を共有する必要がある。
- (4) その他の議論、意見等
- ・ 今年度中に、部会として意見集約し、現時点での総括(とりまとめ)を行う。(部会長)
 - ・ 過去に検査を受診した人と受けていない人は別にして結果をまとめて出さないと誤解を生むこととなる。(部会員)
 - ・ 二次検査後の診療情報の取扱いや学会発表と部会への提示について議論。
 - ・ 事故の影響があるかどうかという視点で、対立する意見同士の疫学的な議論をしていただきたい。(部会員)
 - ・ 県民の皆さんの声をもう少しお聞きしたい。(部会員)
 - ・ 被ばくの影響が見れるような(調査)デザインというものをもう一度考えていただきたい。(部会員)
 - ・ 二次検査以降の保険診療の医療費負担について、科学的な議論だけではすまないが、部会としての方向性を出すべきではないか。(部会員)
 - ・ 対象者のフォローするため、健康手帳とかIDのようなものが必要。(部会長)
- (5) 県民健康調査「甲状腺検査」一次検査結果通知の誤りについて(追加資料1)
- ・ 11月4日発送の結果通知186件中173件に内容の誤りがあったことについて、その後の対応等も含め説明。(医大)